

第8回まちの駅全国大会 in 甘木・朝倉 の記録

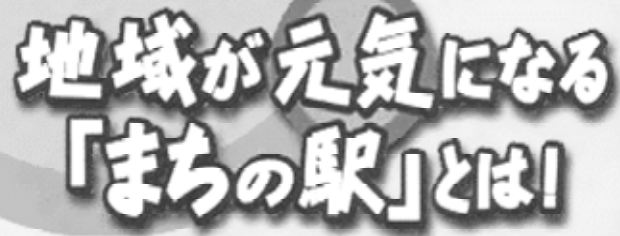
2006年3月



九州初の「まちの駅全国大会」スタート!

2006年2月4日(土)早朝。福岡は未明から降り続いた雪で一面の銀世界。この日、福岡県甘木市では「第8回まちの駅全国大会in甘木・朝倉」が、全国からまちの駅関係者を集め行われます。雪で交通機関が止まったりしないか - 早起きした実行委員には一抹の不安がありましたが、やがてのぼった太陽が燦々と輝きはじめ、会場となったピーボート甘木に開会準備の慌ただしさが増してきたころ、空には一面の青空が広がり、真っ白だったあたりの景色も少しずつもとの色を取り戻してきました。

そして、昼過ぎから会場には続々と参加者が集まってきました。各地のまちの駅から集まった物産が並ぶロビーにも人の波。地元新聞の告知を見てやってきたという当日申し込みの参加者も多く、最終的な参加者数は当初予想の200人を遙かに超える350人に達しました。



午後1時。いよいよ開会。大会実行委員長の上野春樹氏(甘木市・ほとめきの駅)の高らかな開会宣言の後、まちの駅連絡協議会会長の久住時男氏(新潟県見附市長)をはじめ、地元甘木市長などの挨拶が行われました。

「地域が元気になる『まちの駅』とは!」をテーマに、全国大会のスタートです。



まずは全体の流れを説明します

まちの駅ネットワークふくおか 手嶋隆行

参加者全員が大会テーマについて共通の理解を持つこと、大会テーマに対する答えをどんな道順で見つけ出していくのか確認すること、を目的に全体の流れを説明します。

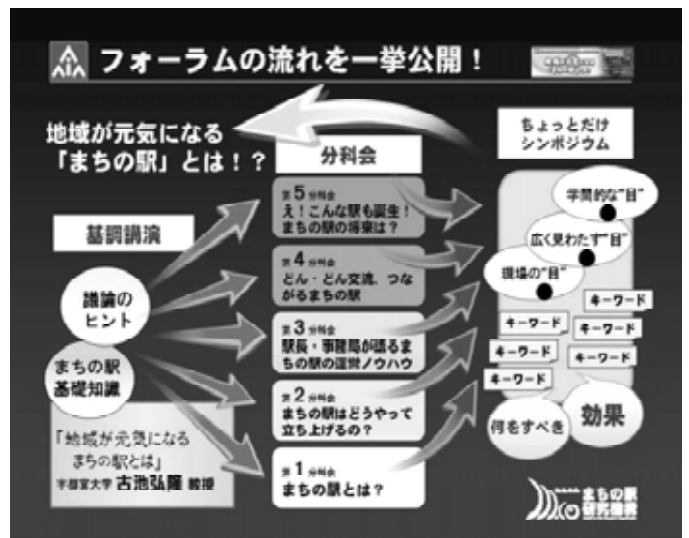
今大会のテーマは、「地域が元気になる『まちの駅』とは!」。これをよりわかりやすくするために、「ふたつの問い」に分けてみました。

- 1 「まちの駅が地域に与える効果とは」
- 2 「地域を元気にするためにまちの駅は何をすべきか」

「ふたつの問い」に答えを出すための最初のプログラムが、基調講演です。講演では宇都宮大学工学部の古池弘隆教授から、まちの駅の基本知識と、これからの議論のヒントを与えていただきます。

次に、五つの分科会に分かれて、参加者全員が議論を行います。コーディネーターのもと、2名の話者提供者の話を参考に議論を進め、その結果を、三つのキーワードにまとめます。

最後に、「ちょっとだけシンポジウム」を開き、議論の集約を行います。



ここでは、まちの駅に対する異なる「目」を持った3人をパネラーが、それぞれの立場での経験や知識、各分科会のキーワードをもとに、「ふたつの問い」への答えを出していきます。

基調講演「地域が元気になるまちの駅とは」 宇都宮大学工学部 古池弘隆教授

「地域が元気になる『まちの駅』とは!」。大会テーマをタイトルに行われた基調講演。講演者は、宇都宮大学工学部教授・古池弘隆先生です。昨年9月、スイスのチューリッヒで行われた国際会議「WALK21」で、「Machinoeki」を国際デビューに導いた古池先生。今回の基調講演では、チューリッヒでの模様を織り交ぜながら、まちの駅の「きほん」をお話くださいました。

§ 基調講演 要旨 §

徒歩が移動の主な手段だった頃、街道筋には旅人の休憩や情報入手の場として、「駅(うまや)」が設けられていました。

明治時代、鉄道の敷設が進み、汽車が重要な移動手段になったことに伴い、「駅」は鉄道の停車場としての「駅(えき)」を意味するようになります。

20世紀後半から、移動の主な手段は鉄道から車へと変わりました。そして、新たに登場したのが車利用者のための休憩施設・「道の駅」です。1993年に始まり、全国に800以上ある「道の駅」は、大規模な駐車場や休憩場所、レストランなどを整備し、地元の農産物などの物販により、地域経済へも大きく貢献しています。そのため、成功事例としての「道の駅」の概念は、世界銀行によって輸出され、現在ケニアと中国で、実証実験が行われています。

車利用者のための施設である「道の駅」に

対し、歩く人のための施設として誕生したのが「まちの駅」です。

「道の駅」が、主に行政により幹線道路沿いに、大規模な施設を伴って建設されるのに対し、「まちの駅」は、設置場所に制限はなく、だれでも既存の施設を利用して、始めることができます。休憩・情報発信・交流・地域連携の4つの機能を持つまちの駅に必要なのは、看板+だれでも気軽に使えるトイレ+街の情報+笑顔あふれる案内人さんです。

現在、全国に572ある「まちの駅」は、さまざま主体により、さまざまな場所に設置されています。目的別には、観光案内所や行政機関のような「まちづくりタイプ」の駅、「海の駅・川の駅・健康の駅」など「テーマ重視」の駅、幼稚園や介護福祉施設のような「特殊」な機能に休憩スペース等を併せ持つ駅などがあります。

また、設置者のタイプでは、「民間団体が中心になってつくる駅」、「市民が一からつくる駅」、「行政がつくる駅」、「行政の支援を受けた民間事業者等がつくる駅」に分けられます。

平成16年の中越地震の際、まちの駅のネットワークを通じ、全国から長岡市や見附市のまちの駅に救援物資が届けられた事例に代表されるように、最近では、まちの駅同士の交流・地域連携も、盛んに行われるようになりました。これからのまちの駅は、中心市街地活性化等において、その効果を発揮していくものと思います。

分科会

基調講演後は5つの研修会場に分かれ、分科会が始まりました。コーディネーターの進行の下、2人ずつの話題提供者がお話しする事例をもとに、参加者の意見もあわせてそれぞれのテーマで議論が交わされ、3つのキーワードにまとめられていきました(はコーディネーター、 は話題提供者。敬称略)。

第1分科会

「まちの駅」とは?

山口 覚 (地域交流センター)
遠藤あおい(地域交流センター)
尾藤長司 (アートの駅・甘木市)

まちの駅は「地域の魅力を出来るだけ伝えたい」「仲間とつながり地域を元気にしたい」という思いがある方々のためのツールとして機能するものだとして尾藤さんから話して頂きました。失いつつある地域への愛情、人との会話によるもてなしなどを住民が主体となり少しずつ取り戻そうと呼び掛けました。地域づくりは行政などに任せっきりで進まないのです。主旨に賛同し早速始めてみたいという方々が何人もいらっしゃいました。

キーワード もっと深い
共有
コミュニティ再生



各分科会で熱い議論が交わされました

第2分科会

「まちの駅」はどうやって立ち上げるの？

河井達志（まちの駅うすき・鹿児島市）
水口鉄昭（ふくろうの駅・北九州市）
藤田眞一（馬頭観光協会・栃木県那珂川町）

ふたりの事例報告者からまちの駅立ち上げの苦労を語ってもらいました。その中でまちの駅立ち上げに必要なのは、まずは「元気」。そして「やる気」のある人を集めること。最後に自分がひとから何を言われようとも先頭に立って旗を振る「勇気」。この3つの「気」が大事だと語ってもらいました。立ち上げたら、あとはいろいろなひとや組織からの応援をもらいながら、進んでいくことができます。まずは立ち上げることが大事だという結論になりました。

キーワード 元気
やる気
勇気

第3分科会

駅長・事務局が語る「まちの駅」の運営ノウハウ

上野春樹（甘木・朝倉広域観光協会）
古野雅臣（まちの駅わかみや・若宮町）
佐藤有史（会津まちの駅・福島県会津若松市）

売上増を期待して「まちの駅」になったが、思った程の効果がなく意欲が薄れてきたとの報告がありました。しかし本来まちの駅とは、人が集まり交流する場所を提供するのが基本で、歓迎の気持ちの代価として売り上げに結び付くこともある位でなければ継続はできません。各駅長が地域社会に貢献できる「まちの駅」を育てて行こうとする心が大切で、そのためにもまちの駅間で連携をしながら切磋琢磨する必要があるのではという結論となりました。

キーワード ひとつがつくる
まちのことを知る

第4分科会

どんどん交流。つながる「まちの駅」

手嶋隆行（まちの駅ネットワークふくおか）
吉田恵子（まちの駅ネットワークとちぎ）
高橋秀一（まちの駅ながおか・新潟県長岡市）

一昨年の中越地震被災地への支援として、まちの駅ながおかで行われた事業を中心に連携の事例を紹介しました。全国にたくさんの仲間がいることを教えてくれた「まちの駅のつながり」。その根っこにあるのは、暖かい「おもいやりの心」や「まごころ」です。駅と駅、人と人とがつながる経験は、まちの駅みんなの意識を変え、新しい活動を始めるきっかけを与えてくれました。新しいことが始まれば、街も少しずつ元気になります。「つながること」には、まちの駅を、そして街自体をより良いものに育てる力があるのだと思います。

キーワード 仲間がいる
つながりの素はこころ
つながりは育ての親

第5分科会

え！こんな駅も登場！
「まちの駅」の将来は？

今泉重敏（地域交流センター九州）
松井広志（まちの駅ぼっぼ町田・東京都町田市）
小池智明（富士市まちの駅・静岡県富士市）

まちの駅の関わり方には様々な入口がありますが、事例報告ではそこからどのように発展していったかが紹介されました。富士市では観光から入って地域内交流、まちづくりへ。また町田市では市街地活性化からひとづくり、コミュニティづくりへ。その際各主体が連携し協力しあっていくことが大切です。またタクシーがまちの駅になったり新しい形のまちの駅が生まれてきているという報告もあり、いずれは海外進出もできるのではないかと夢が広がりました。

キーワード 国を変える
幸せのプラットホーム
バラバラで一緒

ちょっとだけシンポジウム

各分科会での熱い議論。その報告を受け、再び全体会で「地域が元気になる『まちの駅』とは！」についてシンポジウムを行いました。パネラーは、まちの駅に対して様々な形がかかっている3人。まちの駅の現場からは地元甘木市「川茸の駅」駅長の遠藤淳さん、広い視点で語ってもらうために、まちの駅連絡協議会事務局の遠藤あおいさん、学問的（地方自治論）な視点から北九州市立大学法学部講師の森裕亮さんです。まちの駅をいろいろ方向から見ることによって、冒頭に提示した「ふたつの問い」-「まちの駅が地域に与える効果とは」、「地域を元気にするためにまちの駅は何をすべきか」を浮き彫りにしてい

こうという試みです。そしてまちの駅ネットワークふくおか代表・手嶋隆行のコーディネートで議論が展開されていきました。まずは各パネラーにそれぞれの「目」からみたまちの駅像（具体的な質問は名前横の（ ）のとおり）と、分科会で出されたキーワードの中で共感したものはどれかを語ってもらいました。

遠藤 淳さん（まちの駅になって変わったことは？）
「駅になった当初は張り切りすぎて、お客さんを戸惑わせてしまったことがありますが、やがてお客さん同士の会話に、ころあいを見

計らって自分が加わる、という「間」を覚え
ました。このように駅長としての経験を積ん
でいくことで、もてなしの心も芽生えました」。

遠藤あおいさん（まちの駅に事務局として
かかわって良かったことは？）

「現場の人との出会いです。心からつながる、
感動する＝感じたら動く人が多いのが、まち
の駅のすばらしさだと気づきました」

森 裕亮さん（まちの駅に出会って感じた
ことは？）

「まちの駅は、人々の意識が変わることによ
って、地域づくりを担う人材を育成する場な
んだと感じました」。

次に、「ふたつの問い」について、これまで
の議論とそれぞれの知識・体験等をふまえて
答えてもらいました。

遠藤 淳さん（まちの駅で地域が元気にな
ったと思いますか？）

「元気になった駅はありますが、地域全体と
して元気になったかどうかは疑問。少しずつ、
より良いコミュニティをつくっていければ、
と考えています」。

森 裕亮さん（まちの駅は地域を活性化し
ますか？）

「地域活性化に必要なのはコミュニティを再
生させること。それには経済の活性化と人々の
つながりが必要ですが、まちの駅はこのう
ち人々のつながりが生まれる場だと思います」。

遠藤あおいさん（元気なまちの駅に共通す
るものは？まちの駅に何が大切ですか？）

「元気なまちの駅に共通するのは、笑顔で迎
えてくれる人がいる、元気な人がいる、人の
話を良く聞く人がいる、自分の特技をうまく
活かす人がいるの4点。まちの駅がますます
元気になるためには外からほめてあげるシス
テムが必要だと思います」。

以上の意見を受けて、最後にコーディネー
ターがまとめました。

地域を元気にするためには、まずまちのひ
とひとりひとりが変わらなくてははいけません。ま
ちを愛するところ、まちを何とかしなければ
という意識が生まれるところからそれははじ
まります。これまでの議論でも明らかになっ
たように、まちの駅にはひとの意識を変える
力があります。つまりまちの駅は地域を元気
にする可能性をもっていると言えます。

しかし、そうなるためにはまちの駅がしな
ければならないことがあります。それは、特
別なことではありません。まちの駅へのお客
さんに対し毎日地道にあたたかくおもてなし
をしていくことです。まちの駅の数が増える
ことよりも、ひとつひとつのまちの駅が常に
原点に立ち戻りながら地道に続けていき、「本
物のまちの駅」を増やしていくこと。これが
「地域を元気にするまちの駅」にしていくた
めに、今求められていることではないでしょ
うか。

まちの駅甘木・朝倉宣言

これまでの議論をふまえ、大会のまとめとして、「まちの駅甘木・朝倉宣言」を行いました。壇
上で宣言文を読み上げたのは、筑前町「福祉の駅」駅長の今村順さん。堂々と高らかに宣言して
いただきました。

だれでもできるまちの駅、だれでも応援できるまちの駅。

まちの駅から、まちを愛する心が芽生え、思いを同じくする人々が集い、いろいろなまちとまちが
つながり合い、そして地域が元気になっていきます。

わたしたち、まちの駅にかかわる仲間たちは、おもてなしのこころを忘れず、遊びごころを忘れず
に、まずは自らが楽しみながら、まちの駅、そして地域のために、毎日地道に力を注いでいきたいと
思います。

以上、ここ甘木・朝倉の地で宣言します。

2006年2月4日 第8回まちの駅全国大会in甘木・朝倉 参加者一同

全国大会はこのあと、全国のまちの駅からの物産があたる福くじ抽選会、地元農家の奥さんたち
による手づくり料理に舌鼓を打ちながらの交流会、夜なべ談義と続き、全国のまちの駅関係者の交
流が夜遅くまで続いていきました。そして、翌日は青く晴れた空のもと、約45名の参加者が甘木
・朝倉やうきは市のまちの駅をめぐり、大会の成果と新たな人と人とのつながりをお土産に、甘木
をあとにしていきました。

【編集後記】

全国でまちの駅にかかわっている仲間たちが集い、議論し、
交流を深めた全国大会。その成果を少しでも、来場できな
かったすべての方にお伝えできたらと、このたび「まちの駅研
究機構」が報告書を編集させていただきました。特に大会の
2日後、病のためお亡くなりになった福岡県瀬高町「酒の駅
いまいし」駅長の今石光明さんに、この報告書を謹んで捧げ
たいと思います。彼がお元気であったら、きっと全国大会に
参加され、笑顔を振りまいておられたことでしょう。

編
集



まちの駅
研究機構

発
行

まちの駅研究機構
手嶋隆行（まちの駅ネットワーク
ふくおか・福岡県北九州市）
teshimarche@jcom.home.ne.jp
吉田恵子（まちの駅ネットワーク
とちぎ・栃木県宇都宮市）
manetochi@mbn.nifty.com